科目名	視覚機能訓練学演習	分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位

担当教員	◎教授 松岡久美子　　准教授 林 弘美					科目ナンバー	T1C112
課程	博士前期	配当年次	2年	配当学期	通年	授業方法	演習

授業の概要	視覚機能異常としてのロービジョン・弱視についての総論を学修した後、その治療法を具体的に学ぶ。
授業の到達目標	①弱視の総論を復習する。 ②弱視の予防、屈折矯正、遮閉法と視力増強訓練について説明できる。 ③弱視治療の適応と予後に関して、治療開始年齢、弱視の種類と程度、治療への協力、弱視治療の目標、弱視治療計画、弱視治療の変遷、弱視視能矯正の具体的方法、弱視治療の意義を説明できる。 ④各種弱視による視能矯正の実際、弱視治療効果の判定、弱視治療のインフォームドコンセントを学修し、弱視治療訓練の技術を概説できる。 ⑤視覚機能異常の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。

授業計画

回数	担当者	行動目標
1	林　弘美　准教授	弱視の病態について、説明することができる。
2	林　弘美　准教授	弱視の分類について、説明することができる。
3	林　弘美　准教授	弱視の検査について、説明することができる。
4	松岡久美子　教　授	弱視の診断について、説明することができる。
5	松岡久美子　教　授	弱視の治療方針について、説明することができる。
6	松岡久美子　教　授	弱視の治療方法について、説明することができる。
7	松岡久美子　教　授 林　弘美　准教授	テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
8		テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
9		テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
10		テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
11		テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
12		テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
13		テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
14		テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
15		テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキスト、文献の次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点を、質問したり、ノートや配布資料、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	随時　指示する。
参考書	
成績評価の方法および基準	レポート50%、口頭試問50% 欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。1回欠席につき5点を減点する。遅刻・早退は3回で欠席1回とみなす。
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 （ディプロマ・ポリシー2に相当する）